

財 政 通 信 No.29

みなさんこんにちは。

前回の財政通信から半年間のご無沙汰でした。今回は財政課 8 年目の S が担当します。

今回のお題は、財政課にとってのメインイベントである「当初予算編成」についてです。

財政課にとっての予算編成作業のスタートは、各課からの要求締切です。今回の予算編成、要求時の財源不足額は、21 億 4,000 万円でした。平成 28 年度が 22 億 8,400 万円、平成 27 年度が 29 億 1,840 万円、それよりは少ないですが、それでも途方もない数字です(ちなみに、財政課 8 年目になりますが、残念ながら一度も財源超過の経験はありません(T_T))。この財源不足を解消するため、事業の予算規模を縮小したり、場合によっては事業の先送りなども検討していかなければならず、査定担当者にとってはかなりのプレッシャーの中での作業となります。

平成 29 年度の予算編成作業についても、財源不足額を詰めるため、財政課の各担当が各課のみなさんの協力を得ながら査定作業を進め、何とか予算(案)としてまとめることが出来ました。各課のみなさんには大変お世話になりました。

先日、子どもの通う小学校の授業参観に行ってきました。5年生のクラスでは、卒業する6年生へ送るメッセージを漢字一文字で表して、その漢字を選んだ理由を、クラスのみんなの前で発表していました。子どもたち一人ひとりが、それぞれ自分の考え方をしっかりと持っていて、感心させられる発表がたくさんありました。

ちなみに、平成 29 年度の龍ヶ崎市予算(案)を漢字一文字で表すとすれば、私は「進」という文字になるのかなと思います。第 2 次ふるさと龍ヶ崎戦略プランスタートの年として、これまで進めてきたまちづくりの取組をさらに前進させるとともに、新たな取組を推進していく予算だからです。

ということで、本題である平成 29 年度当初予算(案)、新(進)年度予算の説明に入りたいと思います。市の予算は公共サービスの設計書です。「自分の担当の予算はもう十分わかってるよ！」なんて思われる方もいるかも知れませんが、改めて見てみると、ひょっとしたら知らなかった発見があるかも……。前置きが長くなりましたが、少しの間お付き合いください。

平成 29 年度予算のポイント

平成 29 年度予算の総額は 415 億 2,910 万円、平成 28 年度に次ぐ予算規模となりました。一般会計予算は 243 億円、昨年と同規模の予算となっています。

【歳入歳出予算の状況】

まず、基幹収入である市税の状況です。給与所得の増などによる個人所得割の増収や、設備投資等による固定資産税の償却資産分の増収を見込んで、市税全体では、前年度より 8,628 万円の増と

なっています。市税を含む一般財源(使いみちが特定されず、どのような経費にも使用できる財源)は、臨時財政対策債(普通交付税の代替財源)を含む実質的な地方交付税や地方消費税交付金等の減収見込もあり、前年度より7,500万円の減となっています。

歳出は、人件費・扶助費・公債費といった義務的経費や、電算関連経費・施設維持管理経費などの物件費の増により、投資的経費である普通建設事業(公共施設の新增築や大規模修繕)が減少したにも関わらず、予算規模は前年並みとなっています。

このため、建設事業にかかる市債の借入額が減少しましたが、財源不足に対応するための基金繰入は、道の駅整備事業に地域振興基金を7,560万円、たつのこスタジアム外野改修工事に公共施設維持整備基金を4,666万円、純粋な財源不足に充てる一般財源基金(財政調整基金及び減債基金)の繰入が、7億2,600万円と、前年度より約2億円の増という状況です。

主な事業の内容

ここからは、第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プランに掲げられている目標に沿って、主な事業についてご説明します。各課のみなさんにもぜひ知っておいてもらいたい内容をピックアップしてみました。

① にぎわいの創出と交流人口の増加・定住促進 「住んでみたいと感じるまちづくり」

～道の駅の整備と牛久沼の活用を検討します！～

龍ヶ崎の認知度アップを図り、地域の元気と交流を創るため、道の駅の整備を進めます。平成29年度は、整備に必要な基本設計や実施設計など(7,850万円)に取り組みます。また、道の駅を拠点に、牛久沼の有効活用についての構想(648万円)をまとめます。

② 子育て環境日本一 「子どもと住みたいまちづくり」

～子育て世代へ、妊娠、出産、子育てなどの各ライフステージに応じた支援を展開します！～

医療費の自己負担分を助成する小児マル福制度を高校3年生相当まで拡大(5,104万円)し、子育て世代の負担軽減を図ります。また、産後2週間と1か月の産婦健康診査(550万円)を開始し、支援が必要な方へは宿泊や日帰りでの産後ケア事業(161万円)へつなげてもらうなど、妊娠から出産後までの切れ目ない支援体制を整えます。

③ 市民活動日本一 「地域がつながるまちづくり」

～コミュニティセンターの充実を図ります！～

中核的な地域コミュニティ活動への支援をさらに進めるため、地域活動の拠点であるコミュニティセンター13館全てに、防犯パトロール車仕様の公用車を配備(355万円)します。また、館内の照明のLED化(315万円)や、6館のトイレを洋式に改修(9,738万円)し、利便性の向上を推進します。

④ 防災・減災日本一 「安全安心なまちづくり」

～防災基盤の充実を図ります！～

東日本大震災や熊本地震において重要性が高かった、災害時のトイレ対策として、防災貯留型仮設トイレシステム(いわゆるマンホールトイレ)を避難所指定の公共施設に整備(1,076万円)します。

平成 29 年度は、駒柴小学校と八原小学校の 2 か所へ整備する予定です。

⑤ スポーツ健幸日本一 「健康に暮らせるまちづくり」

～健康ウォーキングを推進します！～

市民のみなさんの健康寿命の延伸に向け、ウォーキングや体操などの運動習慣の普及を目指し、市内に 13 か所ある「てくてくロード」のコース点検やマップの改定(136 万円)を進めるほか、新たに健康ウォーキング事業(30 万円)にも取り組みます。

以上、平成 29 年度予算(案)のポイントについてご紹介しました。ここに挙げた内容は、予算(案)の中のごく一部です。内容についてもっと詳しく知りたい方は、「平成 29 年度龍ヶ崎市予算の概要」をご覧ください(市公式ホームページに UP してあります)。

ところで、現在行われているワールドベースボールクラシックの予選、みなさん見てますか？先日行われた 2 次ラウンドの日本－オランダ戦、最後までどうなるかわからない、手に汗握る展開でしたね。日本 1 点リードの 9 回に同点に追いつかれながらもリリーフ陣が奮闘し、延長 11 回、タイブレークでの中田翔の決勝タイムリーで勝ち越しと、本当に最後まで目が離せませんでした。

手に汗握る展開と言えば、今回の予算編成、本当に最後の最後まで、どうなるかわからない、一進一退の状況でした。というのも、予算要求時点での財源不足額を、12 月の市長査定の段階でも 10 億 6,000 万円までにしか解消できず、かなりの基金繰入を覚悟しなければならぬ事態が想定されたからです。それでも課員一同奮闘し、歳入の確保、歳出の削減に取り組んだ結果、最終的な財源不足による一般財源基金繰入を 7 億 2,600 万円と、最低限に止めることができました。

野球日本代表のように、最後に勝ち越し！とまではいきませんでした。試合に例えると、敗戦が濃厚な劣勢の状況から最後に踏みとどまり、何とか引き分けに持ち込むことができた、といった感じではないでしょうか。

龍ヶ崎を定住先として選んでもらい、結婚して子どもを産んで育てて、またその次の世代までずっと住み続けてもらう、このことが人口減少を抑制し、最終的に税収の確保につながっていくのだと思います。

なかなか難しいことですが、そんな定住促進のための取組のひとつに、市民参加型の子育て応援プロジェクト、「子育てたつのこアクション」があります。ホームページで子育てに関する様々な情報を発信しています(特に、「こども監督がつくる 龍ヶ崎市 PR ムービー」は必見ですよ)。

このような取組を進めていくために、しっかりとした財政基盤の構築は必要不可欠です。持続可能な財政運営のため、各課のみなさんのご協力をお願いいたします。

長くなりましたが、最後までお付き合いいただきありがとうございました。

今回は平成 29 年度予算編成の状況をお伝えしました。次回は、平成 28 年度決算がまとまった頃にお目にかかりたいと思います。担当は、財政課 1 年目のホープ、H 主事の予定です。それでは、また (^_^)~